



高崎連帯労働

外注化粉碎裁判闘争が最大の山場に突入 10・28 東京地裁大法廷へ！



JRの外注化と一貫して闘い続けてきました

2012年10月1日 JR高崎支社・千葉支社・水戸支社は、各支社の車両センターの構内運転業務（車両の入換運転作業）とそれに伴う誘導作業、仕業検査（車両の検査、修繕作業）業務、資材・倉庫関係業務、信号業務、駅派出業務などを各支社の子会社である鉄道サービスという会社に一括・丸投げして外注化を強行しました。

高崎支社でも、高崎車両センター（新前橋）、高崎車両センター高崎支所（旧高崎運転所）、高崎車両センター籠原派出所（旧籠原運転区構内）で外注化が強行されました。その時、他の支社では既に外注化が実施されていました。

さかのぼると2001年にJR東日本は、「グループ会社と一体となった業務体制の構築」09年に「グループ会社と一体となった業務体制の更なる推進」という施策を実施して業務委託（外注化）を進めてきました。

これに対してJR東労組も、国労も外注化に協力という立場でしたが、動労千葉を中心に動労総連合は一貫して外注化に反対してきました。

■強行されても反対を貫く

今回の外注化においても安全の問題や、指揮・命令系統が複雑になって事故が起こっている実態、車両清掃を業務の中心としてきた各鉄道サービス会社それぞれに業務を請け負うだけの技術力がない事、教育・訓練のノウハウの無い事、JR社員からの直接の指揮・命令が行われ、偽装請負で業務が遂行される事、休日が年間5日削減される事、保存休暇が消滅してしまつた事などたくさん問題を裁判の中で指摘してきました。

■裁判5年目で最大の山場に

出向無効確認訴訟は12年12月に提訴し、13年2月27日に第1

回公判が開始されてから今日まで15回の公判と数度の進行協議を経て、いよいよ10月28日に東京地裁103号大法廷で本人尋問が始まります。

10月28日は、千葉関係、12月16日は水戸と高崎関係、1月13日は組合も会社も総括的な攻防となります。提出した陳述書で、

発見された事象や、安全問題としての出区点検、業務指示書に見られるJRの直接的指示（偽装請負）にも触れています。東京地裁103号大法廷を原告団と圧倒的傍聴者の数で埋め尽くすために皆さんの傍聴をお願いします。

(漆原)

動労総連合強制出向無効確認訴訟

第一回証人尋問
10月28日（金） 9時45分～17時
東京地裁 第103号法廷（大法廷）
*9時 東京地裁正門前集合

就業規則の一方的改悪による 5年解雇制の強行許すな！

千葉鉄道サービス（CTS）は就業規則「修正提案」を強行したが、これはTTSでも狙われている事だ。

CTSが2月に提案した内容は、契約・パートの更新回数に一方的に上限（最長5年）を作り「限定社員試験」に不合格なら雇止め、作業手当てなどを大幅に削減するというとんでもないものだった。現場から激しい怒りで実施は延期になった

が、会社は7月に提案内容を修正したいと表明した。

8月30日、CTSは関係する労働組合に就業規則改定案の修正提案を行った。修正案には「契約・パート（有期）の雇用期間は最長5年間とする」「会社は…社員から申請を受けた場合は無期雇用とする事がある」という内容が新たに書き込まれた。限定社員試験は取りやめる、代わ

りに無期転換希望者には「申請・面接」して、会社が【判断】する制度を実施するとしている。

この説明を団体交渉もせず、職場説明会すらせずに、「時間が無いから」と、「新しい契約書にサインせよ」「書かないなら10月から仕事はできませんよ」と脅かして強行したのだ。こんなやり方は許されない。労働契約違反・法律違反だ。

■これは他人事ではない

TTSで働いている皆様、CTSにかげられたやり方は自分たちにも、必ずやかけられます。会社がわれわれ労働者をどのように扱っているのかは、分かるでしょう。社員試験のやり方すらまともな回答をせず、上の気持ち次第でほとんどが決まるという態度。すべて同じ事です。

働いてる労働者が賃金が安く、天下りが多くもらっている。闘いなくしてなにも変わりません。組合も、CTSのように妥結するのではなく、闘う事に気持ちを切り替えるべきです。

■いまこそ立ち上がる時だ！

今、韓国では6万人以上の組合がゼネスト（ストライキ）に突入しています。自分たちも色んな意味で声をあげるべきです。

（鈴木）

韓国では9月27日から 無期限ゼネストに突入！



9月27日に鉄道労組がたちあがってから始まった韓国・民主労総のゼネストは23日目を迎えています（19日現在）。

賃金制度を成果主義的に改善し（成果年俸制）、成果をあげなければ自由に首にする（成果退出制）という労働法制改悪に反対するゼネストです。

成果制は、公共企業の民営化（金儲け優先）と一対の攻撃で、公共企業（鉄道・病院・自治体など）を金儲

ている実情です（日本では想像しにくいですが）。

民主労総は10月19日決意総決起集会を開き、次のような決意文を採択しました。

「この3年半、パククネ政府は惨事そのものだった。セウォル号事故で304人の命が冷たい海の中に消え、『問答無用の外注化』でクイ駅の青年労働者をはじめ数多くの労働者が犠牲になった。放水銃の直撃で闘う農民が殺され、朝鮮半島へのサード配備は国民の安全を揺さぶり、揺れ動く土地の上に立てられた原発は破滅の脅威のなかで依然として稼働中である。

闘いだけが希望をつくることのできる時代である。公共部門ゼネストを勝利へ導くためにはゆるる力を集めなければならぬ。労働改悪・成果による解雇制を必ず阻止する。公共部門ゼネスト闘争を2016年11月全国労働者大会と民衆総決起闘争へと継続し、全民衆と共に不法政権・腐敗政権・殺人政権のパククネ政権退陣の闘いに立ち上がる。最後まで共に闘い、共に勝利する」（抄）。

民主労総と動労千葉の共闘

民主労総ソウル地域本部は、

こうしたゼネストを日韓の国際連帯で闘おうとこの夏以来、動労千葉に呼びかけており、私たち動労連帯高崎の仲間である動労千葉は、この呼びかけにこたえて、11/6東京〜12/13ソウルの国際共同闘争を共に闘っています。

動労連帯高崎は、皆さんに呼びかけます。韓国の成果退出制は、安倍政権の「働き方改革」と同一です。安倍の労働法制改悪（働き方改革）は、総非正規化（同一労働同一賃金）といって、全労働者を非正規にする。労働時間ではなく、成果で賃金を決める。）であり、解雇自由化です。狙われているのは公的部門であり、正規職の外注化です。

安全崩壊はいつそう進むこととなります。韓国民主労組・鉄道労組と連帯した日本での闘いが求められています。みなさん、安定した労働条件と鉄道の公共性、安全性をまもるために、日本でも闘いにたちあがりましょう。動労連帯は、11月6日の集会とデモにともに参加され、社会を変え、行動を皆さんに呼びかけます。